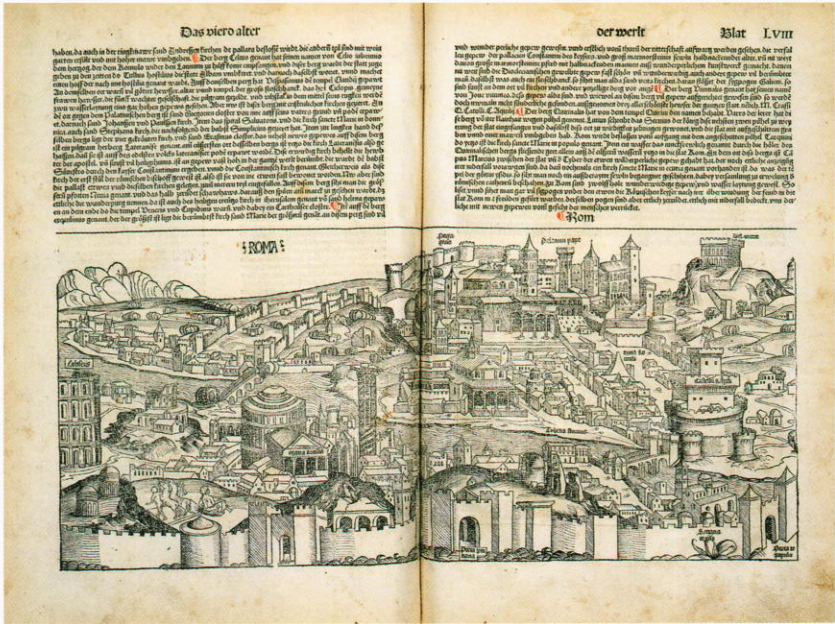


# やまとの名品 天理図書館



シェーデル 年代記

ニュルンベルク 1493年

45.5cm×31.0 cm

西洋で初めて活字印刷術が行われたのは、十五世紀半ばのこと。そして、この最も初期にあたる同世紀の内に刊行されたものは特に「インキュナブラ (Incunabula)」と称し、珍重されている。

聖書を基にした、天地創造から十五世紀までの、世界の歴史・地理に関する奇事異聞を年代順に収めた本書もその一つで、「ニュルンベルク年代記 (Nuremberg Chronicle)」と通称され親しまれる。

著者は、ドイツの医者で人文学者のハルトマン・シェーデル (Hartmann Schedel)。挿絵 (およびレイアウトは、画家ミヒ

ヤエル・ヴォールゲムートとヴィルヘルム・プライデンヴルフ。印刷は、ニュルンベルクで十五世紀最大の印刷業を営んだアントン・コーベルガー (Anton Koberger)。

コーベルガーの工房には、ルネサンスの巨匠アルブレヒト・デューラー (Albrecht Dürer) が、木版画の下絵師として関与していたとも言われ (デューラーは画家ヴォールゲムートの弟子であった)、そこで制作されたものは挿絵が豊富なことで知られている。

本書もまた、二千に近い細密な木版画を収め、頁数は六百頁をこえるフォリオ (二つ折り)



版の大冊。活字は鮮明、ひげの少ないゴシック体。インキュナブラの中でも、最も挿絵豊富で豪華なものである。ラテン語とドイツ語の両版を所蔵するが、掲出はゲオルク・アルト (Georg Alt) 翻訳・編纂のドイツ語版。カットは、世界の果てに住むと思われていた人々についての記述と木版挿絵。

(天理図書館 福田由紀子)